

第5章 保存・活用に関する目標

基本目標

知り、守り伝え、活かす飛騨高山の歴史遺産や伝統文化

個別目標

- A「知る」 全ての世代への歴史遺産や伝統文化の理解の推進と愛着の醸成
- B「守り伝える」 歴史遺産や伝統文化の着実な未来への継承
- C「活かす」 歴史遺産や伝統文化の活用と、活用できる人づくりの推進

高山市は大部分が森林であり、中央部の盆地を急峻な山々を取り囲み、深い谷を結ぶ街道を通じて飛騨匠の木工技術等の様々な文化の交流が行われてきました。こうした豊かな自然と変化に富んだ地形を背景とした人々の営みから、数多くの歴史遺産や伝統文化が生み出され守り伝えられています。これらの歴史遺産や伝統文化は、それらに触れる人々の心を豊かにし、地域への愛着や誇りにつながるものです。地域にとってかけがえのないものとして、市民、関係団体、行政など地域の多様な主体が連携して、指定、未指定を含めた歴史遺産や伝統文化を未来へ継承するための取組や後継者育成を促進し、長期的な視野にたった活用の取組や人づくりを推進することを本計画の目標とします。

本計画では、第一には本市の歴史遺産や伝統文化を『知る』ことにより、すべての世代の歴史文化資源に対する理解を深め、それらの着実な未来への継承に対する意識を高めます。そうして歴史文化資源を『守り伝える』ことでそれらを『活かす』ことにつながり、さらに歴史文化資源を活用できる人づくりを推進します。そして歴史文化資源を活用することでさらに多くの人の『知る』につなげる好循環を生み出すことを目標の大きな柱としています。

図 18 保存・活用の循環目標

